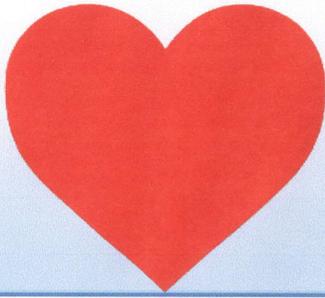


米軍の新基地建設に抵抗する人びと。そこには沖縄への深い愛がある。

長編ドキュメンタリー映画 [Love Okinawa @Henoko,@Takae]



# 沖縄

@辺野古 @高江



新基地建設のための環境影響評価書を運んできた車両を止める沖縄の人びと(2011年12月27日 沖縄県庁前)

## @辺野古 (40分・予定)

米海兵隊の新基地建設計画が持ち上がって15年。辺野古の海には、いまだに杭一本打たれていない。当初の計画を断念させた2004年の海上阻止行動と座り込み。辺野古への基地建設をあきらめない日米両政府に対して、今日も座り込みが続いている。2004年の海上阻止行動から、辺野古のおじいやおばあたちの思い、2010年の名護市長選挙、9万人の県民大会、2011年の環境影響評価書の搬入阻止の闘い、2012年の宜野湾市長選挙まで、1997年から始まった辺野古の闘いの歴史と現状を描く。



高江上空を日々、米軍ヘリが飛ぶ。



重機を伴い「作業をさせてください」と拡声器で叫ぶ沖縄防衛局員たち。テントの中には静かに座り込む人たちがいる(2012年1月 東村・高江)

## @高江 (69分・予定)

米軍・北部訓練所に隣接する高江。約160人の人たちが暮らすこの場所を囲むように、新たに米軍の6つのヘリパッド(ヘリコプターの離発着帯)を建設する工事が始まったのは2007年。住民たちによる座り込みが5年にわたり続いている。ここにヘリパッドができれば、やってくるのは大型輸送機のオスプレイ。騒音も、ジェット噴射による熱も桁違いに大きく、墜落事故も多い危険な飛行機だ。ここにヘリパッドを作らせない闘いは、住民の暮らしや豊かな環境を守ると同時に、沖縄へのオスプレイ配備を阻止する闘いでもある。ヘリパッドができなければ、沖縄で飛行訓練はできない。訓練ができなければ、普天間基地にも、どこにも、オスプレイは配備できない。

【♥沖縄／製作・著作 森の映画社／監督 藤本幸久・影山あさ子／撮影・編集 栗原良介／配給 影山事務所】

問い合わせ：影山事務所 〒004-0004 札幌市厚別区厚別東 4-8-17-12 FAX011-206-4570 e-mail: marinesgohome@gmail.com

撮影快調！完成間近！2012年春公開予定